

【たきがしら会館】  
第一期指定管理者業務評価表

＜評価基準＞

A(著しく優れている):業務基準・目標水準を遥かに上回っている。  
B(適正):業務基準・目標水準を達成できている(※標準点)  
C(改善の必要有):業務基準・目標水準に満たない。又は一部未達成。

＜コメント・理由欄＞

A:数値・具体的な事項等を記入のこと。当初予定していなかった事業を実施し効果をあげたり、目標を遥かに上回った理由を記入。  
B:目標通り達成できている場合は特にコメント不要。目標と違う方法でも同様の効果が得られた場合はその様に記載。  
C:目標に達しなかった理由や今後の改善策を記載のこと。

基本方針	特記 (提案事項要旨)	目標水準（年度計画）	自己評価	総括コメント	行政評価	総括コメント	外部評価	総括コメント
市民スポーツの活動拠点として高い稼働率を実現し、幅広いニーズを捉えるための維持管理を前提としながら、スポーツを通じた健康増進と共生社会の実現に寄与し、地域の賑わいづくりの拠点としての機能を向上させる	【P7】 基本方針① 施設の安全・安心な利用を促進するための修繕や維持管理活動を積極的に行い、常に稼働率が高く、より多くのお客様に使用される施設を目指す  基本方針② 地域との連携を積極的に行うことで、豊かな地域社会を実現するための施設運営に取り組み、誰にとっても、いつでも親しみのある施設を目指す		B	・基本方針①についての総括 全体的に設備の老朽化が著しいため、積極的に修繕・維持管理活動（ティークーナー床張替等）を実施し、利用者が快適に過ごせる環境づくりに努めた。 和式トイレの洋式化などバリアフリー化に時間を要しており、今後改善が必要な箇所もあるため、年代や障害の有無等を問わず、施設を利用できるように、引き続き修繕を実施していく。  基本方針②についての総括 通常の一般利用以外でも、磯子区主催「いそっぴーゴールデンウィークスタンプラリー」への参画や横浜市主催「クールシェアスポット」加盟などの地域連携活動を通して、利用者にとって身近な施設づくりに努めている。 指定管理者の特性を生かした取り組みとして、磯子区在住・在学の小学生を対象としたバスケットボールクリニックの会場として誘致・実施し、地域とのかかわりをより強固なものにすることができた。	B	本施設は築40年を超えており、指定管理開始当初から施設全体にわたり経年劣化が進行している状況であったが、通年で施設・設備の大きな不具合やトラブルがなく、計画的に修繕を行えているものと見受けられる。基本方針①に則り、限られた予算の中で適切な修繕を行い利用者が快適に過ごせる環境づくりを行っている。  基本方針②に則り、行政と連携した取組を実施し、地域の賑わいづくりに貢献した。 また、幼児・小学生から大人まで幅広い年齢層を対象としたスポーツ教室の実施を実施し、新型コロナウイルス感染症からの利用回復に寄与していると言える。		
基本方針を実施する為の目標及び実施策	【P12】 ・延べ利用者数の目標設定 令和5年度 95,100名 令和6年度 113,200名  【P12/13】 ・上記2つの基本方針に基づいた8つのチャレンジ目標と27のアクションプラン（以下表参照）の実行	■第1 期指定管理期間の目標人数設定 指定管理者として、たきがしら会館の設置目的や基本方針を実現しているかを定量的に評価する指標のひとつとして、延べ利用者数を目標として設定します。 ■2つの基本方針にもとづく実施策 8つのチャレンジ目標と27のアクションプランを着実に実行します。	B	・延べ利用者数の実績 令和5年度 81,152名（6月～指定管理開始） 令和6年度 136,469名 令和5年度は施設の周知不足により、もともと需要が低い武道場や会議室の稼働率が上がらないという課題が出た。抽選後、空き枠となった平日の会議室について株式会社ビー・コルセアーズが使用したり、武道場の空き枠をキッズスペースとして開放することにより、空き枠を有効活用することができ、稼働率の改善につなげることができた。 また、広報活動として、地域広報誌に情報掲載を依頼したり、SNSでの積極的な発信（Xでのキッズスペース開放日スケジュールの告知等）を行ったりした結果、口コミなどが広がり、利用者増加につながった。  ・8つのチャレンジ目標と27のアクションプランの実行について チャレンジ目標①、②、③、⑥はアクションプランはすでに実行済み。 ④の普通救命講習会の全員受講についてはR8年度内には実施予定。 ⑤、⑦について、誰もが利用しやすい施設にするための修繕等（段差解消のためのスロープ設置等）を実施し、障がい者スポーツイベントや高齢者向け教室などを誘致・実施できるような環境づくりを目指す。 ⑧について、教室のweb申込の導入を検討中。	B	指定管理初年度となる令和5年度の実績及び稼働状況を踏まえ、広報活動を強化し、令和6年度には前年度比で約40%の利用者増加となった。 計画に対してもR5.6の目標利用者数に対し、利用実績は104%と大きな成果を上げており評価できる。 広報強化や空き枠の活用等によりチャレンジ目標②で掲げている延べ利用者11万人を達成できている。また、バスケット教室によりチャレンジ目標⑥で掲げている子供たちが運動を好きになるきっかけづくりとしての教室プログラムを展開できているほか、ヨガやバレエなど幅広い年齢層に向けた教室事業を実施できている。 未実施のチャレンジ目標については今後も積極的に実施・達成をしていただきたい。	B	提案内容に基づき、適切に管理されている。空き枠を活用したキッズスペースの地域への提供等、民間企業ならではの目線でニーズに即した施設運営が行われている。
基本方針①	・施設の安全・安心な利用を促進するための修繕や維持管理活動を積極的に行い、常に稼働率および収益性が高く、より多くのお客様さまに使用される施設を目指します							
チャレンジ目標①	チャレンジ目標②	チャレンジ目標③	チャレンジ目標④					
快適なお客さまのご利用環境のための予防修繕	延べ利用者数11万人の達成	省エネによる地球温暖化対策/環境保全の実施	危機管理体制/コーポレートガバナンス強化					
・1日6回以上の日常点検・清掃 ・24時間対応の警備システム ・予防保全を主な目的とした毎年度330万円（税込み）以上の修繕実施 ・独自の建物劣化診断に基づく中期修繕計画と管理 ・老朽化した体育器具・備品等の更新	・たきがしら会館の市民認知度の向上 ・一般利用体育室の施設稼働率80%以上 ・一般利用のホール稼働率50%以上 ・優先利用枠の95%以上稼働	・事務所内照明設備のLED化 ・横浜市グリーン電力調達制度を活用	・AED操作訓練を全スタッフが年4回実施 ・常勤職員全員が普通救命講習会等を受講 ・地域の各主体と連携した防災訓練を実施 ・災害発生時の避難訓練対応の整備 ・公衆無線LANの導入					
基本方針②	・地域との連携を積極的に行うことで、豊かな地域社会を実現するための施設運営に取り組み、誰にとっても、いつでも親しみのある施設を目指す							
チャレンジ目標⑤	チャレンジ目標⑥	チャレンジ目標⑦	チャレンジ目標⑧					
誰も取り残さないインクルーシブスポーツ拠点	次世代育成への取り組み	地域支援、社会貢献活動の強化	スポーツ実施率支援					
・障がい者が利用しやすい施設の整備 ・ホームページのリニューアルによる参加障壁の除去 ・障がい者スポーツイベントを年4回誘致	・子どもたちが運動を好きになるきっかけづくりの教室/プログラムの展開 ・バスケットボール以外のスポーツも含めた教室事業の充実	・地域からの雇用促進 ・シニア向けプログラムによる二コソ禍でのフレイル対策 ・年4回以上のお客様還元イベントの実施	・教室申込のクレンアップカードでのお支払い ・キャッシュレスの推進 ・Webによる申し込み方法の拡充					
安定的な経営体力と適正な経営情報開示（経営の透明性）	【P14/15】 スポーツの普及振興の実績を生かした安定的な運営体制の整備	■安定的な管理運営が可能な経営体制 協力会社である公益財団法人横浜市スポーツ協会のアドバイスおよび、横浜市スポーツ協会が統括する管理・運営に関する豊富なネットワークを駆使し、指定管理者制度に順応した体制を整備します。 ■12 年の実績とノウハウを持つ組織構成と関係業務執行体制 管理部門や施設・事業を運営する6つの部から構成される組織で、総勢20 名(令和4 年6 月1 日現在)の職員を配置しています。責任体制は、会社法に基づくガバナンスのもと、業務執行組織及び事務分掌を規定し、権限を明確にします。 ■災害等発生時のバックアップ体制 公益財団法人横浜市スポーツ協会のアドバイスのもと、施設管理部門にリスク管理・危機管理を担う担当者を設置し、危機管理の実践的体制を構築していきます。法的なリスク管理や事故の補償等には、スポーツ業界での経験豊富なTMI 法律総合事務所の顧問弁護士チームによって事態に備えています。	B	多種多様なスポーツイベントの運営実績のある館長(防火管理者)、管理担当、事業担当の常勤職員を配置することで、安定的な運営体制を整備している。さらに施設周辺に在住の非常勤職員(パートタイマー)を雇用し、運営面でのサポートを強化を行い、週1回のミーティングにて利用者から寄せられたご意見や課題の共有及び解決策の検討を行うことにより、職員の責任感の向上及び課題解決を図っている。 指定管理者のコネクションを生かし、施設管理のノウハウが豊富である公益財団法人横浜市スポーツ協会と協業し、月2回程度ミーティングを実施。指定管理者としてのバックアップを得ている。	B	令和7年度以降、事務職員を増員し、従前以上に当課との連携が密に行えるようになり、適切な施設運営に寄与していると言える。 また、本施設の前管理者である公益財団法人横浜市スポーツ協会との協業体制を構築し、施設管理に関するノウハウの共有を受けており、経営基盤の強化に資する体制が整えられている。		

【たきがしら会館】  
第一期指定管理者業務評価表

(1) 事業・運営目標	特記 (提案事項要旨)	目標水準（年度計画）	自己評価	コメント	行政評価	コメント	外部評価	コメント
公共性・公平性に基づいた利用の確保	【P18～20】 地方自治法や横浜市スポーツ施設条例に則った平等利用の原則を堅持する体制及び障がい者に対する減免の適用	・横浜市民利用予約システムの導入及び研修参加 ・貸切の一般利用の空き状況については館内掲示やホームページでリアルタイムな状況を掲出するのみならず、SNS 等を積極的に活用し、利用促進と稼働率向上に取り組みます。当館受付および当館ホームページでは、初めての方にも予約方法や空き枠がわかりやすいよう、ご案内します。 ・横浜市民活動推進条例に基づいた優先利用の調整	B	毎年度、優先利用に関する基準及び基本方針を策定し、指定団体・教室・市民団体の優先利用希望を調整している。 令和6年2月度利用分より横浜市民利用施設予約システムを導入したため、より公平・公正な体制が構築されつつある。また、システム導入前に、すでに利用を開始している他施設へ行き、研修を実施（R5年9月）することにより、スムーズな運用につなげることができた。 条例に基づき、身体及び精神障がい者の個人利用の半額減免や駐車場の全額免除対応を実施。 「人権尊重の取り組み」「公共サービス従事者」の心構えを徹底する全員研修』に関する事項については、R7年度中に実施予定。	B	優先利用については公平で円滑な利用調整と利用促進を図るため、優先利用の調整により年間利用の受付調整等を行っている。 一般貸切利用については横浜市民利用予約システムにより利用予約しており公平性が確保されている。		
多様な利用者への配慮・支援に関する取組	【P21/22】 ユニバーサルデザインの考え方に基づくサービスの提供 【P24/25】 障がい者に対する支援の取り組み	・外国籍の方のご利用も促進していくため、施設内外の各種案内物や看板においては、英語のほかユニバーサルデザインとバリアフリーに基づいた絵図や国際的に通用するピクトグラムを併記します。 ・インクルーシブスポーツの推進 ・パラスポーツを体験する事業の実施 ・障がい者の利用支援に関する取り組み（利用者支援体制、スポーツ事業の計画）	B	当館では外国人も多く利用するため、施設内に掲示している案内表示にピクトグラムや英字表記を追加し、理解しやすいよう配慮を行っている。その他もユニバーサルデザインとバリアフリーの考えに基づき、R7年度中に筆談での対応など実施可能な範囲で様々な利用者に対しても同等なサービスが提供できる環境を作っていく。 パラスポーツの普及・振興のため、車いすバスケットボールチーム「神奈川ヴァンガーズ」と協力し、令和5年に車いすバスケットの誘致を行い、大会を開催した。 当館利用者の傾向から、高齢者へ向けた対応は後手に回っていたため、今後の取り組みとして、指定管理期間内に高齢者に向けた健康増進事業（ストレッチ教室やウォーキング教室等）を実施できるようにしたい。	B	英字標記を併記した利用案内が整備され、外国籍の方も利用しやすい環境づくりに努めている。 今後、利用者層の拡大のため高齢者に向けた健康増進事業についても積極的に取り組んでいただきたい。		
利用者本位のサービス提供	【P29/30】 サービス向上に向けた取り組み	・管理運営マニュアルの作成及びそれに基づいた研修 ・お客様の声を積極的に聞き、対策・改善の構築 ・各種運動器具については、器具庫からフロアまで職員が搬出の手伝いを行い、設置方法がわからない時や大型器具の移動が困難との申し出があった場合は、職員が随時サポートします。 ・競技大会等へのサポートについて、事前準備や設営・撤収、片づけ等についても会得したノウハウを積極的に活用し、主催者へのサポートを行います。 ・フリーWiFiスポットの設置を行います。	B	管理運営マニュアルを作成し、統一したサービスが提供できるように研修を四半期に一度実施。定期的な見直しも行い、より良いサービスが提供できるように改善に努めている 利用者からの意見を集約したシートを作成し、解決方法や対策をスタッフ全員で考え、お客様の声に応える体制を構築した。お客様の声及び対応策を事業報告書に公開し、信頼性の向上に努めている。 フリーWifiを設置し、利便性を向上させたことにより、フリースペースの活用幅を増やすことができた。 大会実施前に使用備品や動線の確認などの事前打合せを行い、当日の大会運営がスムーズに行えるようなサポートを実施している。 R7年3月よりキャッシュレス決済を導入し、多様な支払方法に対応できるようにした。	B	指定管理開始時にそれまで整備されていなかった施設利用者向けの無料Wi-Fiの設置、また令和7年3月からキャッシュレス決済を導入することで利用者の利便性に寄与していると言える。 また、利用者からの意見や提案に対して施設内でミーティングを行い、改善可能なものは対応を行い、接遇向上のための努力が認められる。	B	専門性の高い教室事業の実施など指定管理者の強みを生かした運営が行われている。高齢者向けの取組等も今後期待したい。
広報・利用促進活動	【P34/35】 利用者数増加に向けた様々な媒体での情報発信 【P37】 イベントを活用した利用促進	・HP、SNSを有効活用した積極的な情報発信を行ないます。 ・デジタル媒体だけではなく、紙媒体での広告掲載、情報発信強化し認知を促していきます。 ・年に4回以上、市民の皆さまが無料で参加できるイベントを開催します。	B	誰もが見やすく分かりやすいWebデザインを意識し、会館HPのリニューアルを行い、利用者が得たい情報にアクセスしやすい環境を構築した。またSNS(X)では毎月のキッズスペース開放情報やイベント情報などを積極的に発信し、利用促進につなげることができた。 紙媒体では、タウンニュース(磯子区・金沢区版)を中心に、月1～2回程度様々な地域情報誌に広告、施設情報を掲載。 長期休暇に合わせ、近隣の未就学児～中学生を対象とした無料開放イベントを四半期に1回程度実施。イベント内では、バスケット、チャアリーディング、モルック教室の講師を招き、無料体験会を年1回程度実施。 令和5年度には、夏休みの期間にプロバスケットボールクラブのファン向けイベントを実施し、トークショーやバスケット教室を通して、近隣住民及びファンとふれあいを行った。	B	Webサイト及びSNS(X)から即時性の高い情報も発信され、利用者本位のサービスがされており、今後も、利用者からの意見等への対応や情報の発信を期待したい。 夏休みに実施された体育室の無料開放デーにおいて、横浜ビー・コルセアーズの選手を招いたバスケットボール体験会を開催し、定員に達する参加者を集めるなど、効果的な広報・集客が図られている。		
スポーツ教室等の計画	【P38～40】 多種多様な教室事業の実施・検討	・指導者については、バスケットボールやチャアリーディングについては質の高い指導者を自社手配し、それ以外の競技については質の高い地域指導者や競技種目加盟団体と連携して手配します。 ・万が一の事故に備えて、全ての参加者を対象に、傷害保険に加入し、教室開催中に発生した怪我を傷害保険の範囲内で補償します。	A	バスケット教室、チャアリーディング教室では、指導の質の高い講師を配置することにより、定員に達するクラスが出るほど、人気が高い事業を作り上げることができた。また、大人向けのモルック教室ではモルック日本代表経験がある方を中心とし、講師のライセンス制度を導入。 バスケット、チャアリーディング、enjoyダンス、モルック、ヨガ、健康身体チェック運動教室を実施し、R5年度(7月～3月)では合計438名、令和6年度では合計967名が参加した。 横浜スポーツパートナーズの人脈を活用し、(一社)チャアリーダース協会(横浜・F・マリノスチャアリーディングチーム)から、バレエ教室の講師を派遣してもらったり、当館の事業以外でも横浜DeNAベイスターズスクールの冬季実施会場として誘致及び開催をしている。 すべての当館の教室事業において、1人1回まで無料体験することができ、運動機会の拡大とともに、参加に対するハードルを低くすることができた。 その他、卓球教室や体操教室など、様々な協力的会社と協議し、今後展開していく予定である。 同一施設内にある東滝頭保育園へのバスケットボール教室は指定管理期間中には実施予定。	A	社としての強みを活かし、バスケットボール教室やチャアリーディング教室において、専門性の高い指導を実施している。これにより、子どもたちのスポーツへの関心や意欲の向上につながるとともに、利用者数も増加しており、指定管理者の強みを十分に発揮した取組が行えていると言える。 さらに、バスケットボールに限らず、バレエ、ダンス、モルックなど多様な種目の教室を展開することで、幅広い世代・興味関心に対応した事業運営がなされており、地域のスポーツ人口の拡大や健康づくりの推進にも貢献している。		



【たきがしら会館】  
第一期指定管理者業務評価表

(1) 事業・運営目標	特記 (提案事項要旨)	目標水準（年度計画）	自己評価	コメント	行政評価	コメント	外部評価	コメント
自主事業の計画	【P45】 施設貸出業以外の事業展開	・開館時間以外の駐車場事業 ・自動販売機を使用した飲料販売事業の展開 ・ニーズに応じたレンタル事業のリニューアル ・基本時間外の教室事業 ・健康づくりプログラム	B	駐車場事業をタイムズ24株式会社へ業務委託することにより、運営に必要なコストを削減する 他、安定的な収入を得ることができている。しかし、駐車場の構造上、トラブル（すれ違いでの接触、入庫待ち車両の渋滞等）になりやすく、利用者から改善必須との声が上がっているため、運営会社と協議し、安全において最善な運営を今後目指していく。 飲料販売事業では、3台の自動販売機を設置。全てキャッシュレス対応型を採用しており、利便性が高く運営できている。さらに、非常時に飲料を配布可能な機能も備えている。 飲料以外の販売事業については現在検討中。 様々なニーズに対応できるよう、レンタル物品（延長コード、ポータブルマイク等）を追加した。 「基本時間外の教室事業」「健康づくりプログラム」については、指定管理期間内には実施予定。	B	駐車場の運営やロビーに面したティーコーナー（休憩スペース）に自動販売機を設置するなど、利用者へのサービス向上及び収入確保を行っている。今後更なる自主事業拡大への取組を期待したい。		
業務履行体制	【P48】 適切な人員配置  【P49】 労働法、規則などの遵守体制	・運営するにあたり必要な資格保持者、知識を持っている職員の配置 ・適切な労働環境の整備	B	統括責任者として防火管理者資格を保持している社員を館長として配置。さらに、施設運営に精通しており、業務全般をマネジメントできる管理担当者と業務担当者を配置。 常勤職員、アルバイト職員含め利用状況に合わせたシフト調整を行い、迅速な対応ができるよう体制を構築している。 社労士と相談したうえでアルバイトスタッフの有休や勤務時間などのルールを策定し、労働基準法などの関連法令の遵守を徹底。 常勤職員については、半期に1度、成果を客観的に評価し、質の高いサービスを提供するためのプロフェッショナルな人材育成に務めている。	B	人員配置について、土日などの繁忙期には人員を増員し、平日午前中の閑散時間帯には最小限の人員配置とするなど、利用状況に応じた柔軟な人員体制を構築し、利用者サービスの質を維持しながら、効率的な運営を実現できている。 施設の管理運営に関しては、本市への報告や連絡等もスムーズであり、履行体制に問題はないと考えている。	B	
個人情報保護・情報公開、人権尊重、環境への配慮、市内中小企業優先発注など、本市の重要施策を踏まえた取組	【P53/54】 守秘義務・個人情報保護の徹底  【P55/56】 環境への配慮  【P59】 インクルーシブスポーツの推進	・個人情報保護に関する年一回以上の研修の実施 ・ゴミと資源の「リデュース（発生抑制）、リユース（再利用）、リサイクル（資源化）」を進めます。 ・インクルーシブスポーツ推進への取り組みを行います。	B	毎年度、個人情報保護に関する法律の規定に基づく民事上の責任についての研修を全員受講。 環境保護の取り組みとして、ゴミの分別を啓発するポスターを館内に掲載。さらに横浜市の「横浜市グリーン電力調達制度」に登録された事業者（東京電力エナジーパートナー）から電力を調達。 インクルーシブスポーツの推進事業として、横浜ビー・コルセアーズと神奈川ヴァンガードが協業して実施した車いすバスケットボール体験会の会場として誘致及び実施した。	B	毎年度適切に個人情報保護に係る研修を実施し、本市へ報告書提出がなされている。 インクルーシブスポーツの推進事業については今後も定期的かつ継続的に取り組んでいただきたい。		
(2) 維持管理目標	特記 (提案事項要旨)	目標水準（年度計画）	自己評価	コメント	行政評価	コメント	外部評価	コメント
メンテナンス及び環境保持・環境配慮	【P71/72】 メンテナンス体制と日常点検	・協力会社である横浜市スポーツ協会の協力のもと、建築設備の管理には、横浜市スポーツ協会が統括する事業者の協力を得て、保守等の措置を適切に講ずることにより、事故・故障等を未然に防止します。 ・職員による設備管理・清掃・警備全般の日常点検を徹底します。体育室や更衣室などの巡回・点検は、1日6回以上行い、異常の有無に関わらず「日常点検チェックシート」に記録します。	B	定期点検については協力会社に一括して委任し、円滑かつ効率的に点検業務を実施できるような体制を構築。 業者の介入が不要な、運営スタッフで実施可能な範囲の点検は、日時及び頻度を決めたくうえで実施。「日常点検チェックシート」を毎日作成し、実施状況が可視化できるようにしている。	B	設備管理について、高い専門性を持った協力会社と連携することで適切な運営及び法令遵守に努めている。また日常点検を可視化するなど工夫をしている。		
修繕等への取組	【P77】 修繕計画の策定・実行	・毎年度年間税込330万円以上の修繕費予算を計上 ・5か年、年間、四半期での修繕計画を作成	A	毎年度税込330万円以上の修繕費を使用し、老朽箇所の修繕・改修を積極的に実施している。（駐車場補修工事や屋上給水配管改修工事など、R5年度は330万円、R6年度は503万円を計上） そのほか、指定管理者として利用者の声を受けの中で、利便性向上のために、指定管理者が横浜市へ寄附することによって、和式トイレの様式化やシャワーの給湯器更新などの大規模な修繕を実施することが可能になっている。 施設判断で修繕できない箇所が増加しているため、引き続き横浜市と協議しスムーズに修繕できるようにしていく。	A	築40年を超え、施設は老朽化してきているが、通年で施設・設備の大きな不具合やトラブルがなく、計画的に修繕を行っているものと見受けられる。 指定管理者業務そのものではないが、横浜市の財源不足等で進んでいなかった工事等について、指定管理者として寄附を行い、市で工事を実施しており、利用者の利便性向上に寄与していると言え、高く評価する。	A	施設老朽化が進む中であっても、大きな施設不具合もなく、適切に管理されている。 また、計画的に修繕を進めるほか、利用者の利便性向上に向けた修繕等の取組がなされている。
安全管理（平常時及び緊急時の体制）	【P79/80】 平常時の体制  【P81～84】 非常時・災害時の体制  【P85】 賠償保険への加入・対応	(平常時) ・更衣室等の施設巡回・点検を2時間ごと（1日6回以上）実施し、犯罪等を未然に防ぎます。 ・監視カメラを設置して安全対策に努めます。 (非常時) ・普通救命講習の受講 ・神奈川消防署の協力のもと、お客様とともに危機管理マニュアルや消防計画に基づいた実践的な防災訓練を実施します。 (賠償保険) ・スポーツ・レクリエーション傷害保険へ加入し、参加者の事故や怪我の発生に対しての補償を担保します。 ・建築物の設備構造上の欠陥、あるいは管理上の不備等に起因して、お客様に身体的傷害や財物損壊を与えた場合に備え、施設賠償責任保険に加入します。	B	営業時間中は、1日6回以上(利用者の入れ替えの度)職員による巡回を実施し、安全管理に努めている。 監視カメラを追加し、施設内、駐車場に計12台設置している。 年に1度以上、非常時に迅速な対応ができるよう普通救命講習の受講し、東滝頭保育園分園と連携した防災訓練を実施している。 教室参加者が安心・安全に参加できるよう、教室実施中並びに往復途中に発生した事故や怪我に対応したスポーツ・レクリエーション傷害保険に加入している。また、施設利用者に対する被害が発生した場合に対応可能な施設賠償責任保険への加入も行っている。	B	職員による施設の巡回や防犯カメラの設置により、防犯の対策がなされている。 災害時における施設利用者の安全確保を目的として、合築施設である東滝頭保育園分園と連携し、合同で防災訓練を実施することで、実際の災害発生時を想定した、より現実的かつ実効性の高い訓練が行えている。		

【たきがしら会館】  
第一期指定管理者業務評価表

(3) 収支目標	特記 (提案事項要旨)	目標水準(年度計画)	自己評価	コメント	行政評価	コメント	外部評価	コメント
利用料金等収入増への取組	【P61】 指定管理事業 【P62/63】 その他事業	・全ての世代が参画可能な教室事業の積極的な展開 ・トレーニング施設を改修し稼働率を向上させます。 ・イベントを実施する際の物販の実施	A	教室事業において、種目数は少ないものの、バスケット教室、チアリーディング教室を中心に、高単価であるが講師の質が高いため、人気を博しており、令和6年度では教室参加料収入が目標の約150%に到達した。(教室収入はR5年度12,334,900円、R6年度は21,704,800円、参加人数は「スポーツ教室等の計画」>多種多様な教室事業の実施・検討」にて記載) 利用者を増やすために、トレーニング室の機器を増設したり、抽選後、空き枠となった平日の会議室について株式会社ビーコルセアーズが使用するなど、稼働率を意識した取り組みを実施している。 またイベント実施時にはロビーを使用した物販を実施し、収益増に貢献している。	A	横浜ビー・コルセアーズによるバスケット教室やチアリーディング教室では指定管理者の強みを生かした専門性の高い指導を実施することで令和5年から令和6年度で利用者数及び収入の大幅な増加を達成している。 空き時間帯や未利用の諸室・スペースを有効活用する工夫を行い、施設全体の稼働率向上と収益確保に寄与していると言える。		
施設の課題等に応じた費用配分	【P66】 運営するために必要な経費	・昨今の物価高に対応した費用の配分 ・利便性向上のための取り組み	B	毎年上昇する最低賃金や、物価高による水道光熱費など各種費用の上昇に対応するために、毎年度予算を見直し、適切な配分を実施。 当館は老朽化が進んでいるため、修繕費や備品のリニューアルを目的とした消耗品費や備品購入費に積極的に投資し、他の費用を抑えられるように運営している。	B	築40年を超える施設ではあるが、決められた修繕費の中で優先順位をもって修繕業務を行っている。		
効率的な管理運営	【P64/65】 経費の使用方法、縮減	・施設・設備の日常的な状態確認や、定期点検等の「結果と対応」修繕の「実施と記録」などを通じて長寿命化や省エネルギー化を実現します。 ・空調・照明等のON/OFF管理を徹底し省エネルギー化を実現します。	B	駐車場事業について、業務を委託することにより運営コストを削減。 教室実施時や土日などは人員を増やし、平日の午前中は利用者が少ないので最低限の人員での対応など、利用状況に応じたスタッフの人員配置の変動を行っている。 備品の購入について、弊社のスポンサーサプライより提供いただくなど、コストの縮減を図っている。 空調は電気をこまめに消し、不要な電力消費を抑さえる努力を行っている。	B	土日などの繁忙期には人員を増員し、平日午前中の閑散時間帯には最小限の人員配置とするなど、利用状況に応じた柔軟な人人体制を構築し、利用者サービスの質を維持しながら、効率的な運営を実現できている。 施設内に市との連絡窓口となる常勤職員を常時配置する体制を整備しており、これにより日常的な連絡・調整が迅速かつ円滑に行われている。		
適正な委託・調達・雇用	【P68】 業務委託の適切な選定	・高い専門性を有する業務は、協力会社である公益財団法人横浜市スポーツ協会の協力のもと、横浜市スポーツ協会が管理する公共スポーツ施設の設備管理実績が事業者から選定することで、業務の安全性とクオリティを担保します。	B	夜間のスタッフ不在時(閉館時間中)の警備や植栽選定など、指定管理者のコネクションの中で、各分野で専門性を有し、実績のある企業を選定し、業務品質向上に努めた。1年ごとの見直しも実施している。 スタッフの募集をする際は、ポスティングを実施し近隣地域にお住まいの方を積極的にアルバイトスタッフとして雇用している。	B	近隣地域にお住まいの方々をアルバイトスタッフとして積極的に雇用しており、地域の雇用促進に寄与するとともに、地域に根差した運営体制を実現できている。 今後、横浜市中小企業振興条例の趣旨を踏まえたうえで市内中小企業の受注機会の増加にも積極的に取り組んでみたい。		利用者ニーズに即した教室事業の実施により、収入が目標を上回るなど利用料金の収入増につながる取組が行われている。

【たきがしら会館】  
第一期指定管理者業務評価表

(4) その他目標	特記 (提案事項要旨)	目標水準 (年度計画)	自己評価	コメント	行政評価	コメント	外部評価	コメント
地域支援・地域連携・ 地域貢献	【P87】 地域のためのたきがしら 会館として	・地域の活性化を目指した連携 (地域イベントへの参加、防災への 協力、地元住民の方々への雇 用) ・地域からのご支援に報いるた めに、地元住民の方々にたきがしら 会館により馴染んでいただくた めの還元イベントを開催します。	B	磯子区主催の「いそっぴゴールデンウィークス タンブラリー」に参画し、地域住民への施設の認 知度向上ともに、キッズスペースやトレーニング 室など、利便性をアピールすることができた。 地域への還元イベントとして、1年に4回以上近 隣の未就学児～中学生を対象に体育室・ホールの 無料解放デーを実施した。その際に無料体験会と してバスケットボール教室、チアリーディング教 室、モルック教室を実施した。	A	入場無料の地域イベント（たきが しら会館サマーフェスタ、スポーツ レクリエーションフェスタ等）や夏 休みのこどもの居場所につながる施 設無料開放を実施しており、地域に 開かれた公共施設として地域住民と の交流促進および施設の認知度向上 の役割を果たしているといえる。 また、予約が入らなかった武道場 を子どもと保護者向けのキッズス ペースとして無料開放することで、 母子の居場所づくりや地域の子育て 支援にも貢献していると言える。	B	こども子育て世代に対して、市 の施策と連携した取組がなされ ている。
自己評価・第三者評価	【P93～95】 様々な視点でのモニタリ ングの実施	・各方面からチェック機能を働か せ、業務水準を維持・改善するた めの手法として、「モニタリン グ」を積極的に活用しています。 ・PDCAサイクルによる組織的な改 善活動を行います。 ・週次ミーティングでの課題共 有、各進捗状況の確認	B	週次ミーティングを実施しており、館長や事業 担当者、管理担当者だけではなくアルバイトス タッフや横浜ビー・コルセアーズ経営陣も参加 し、様々な視点から意見を取り入れ、組織的な改 善活動を行い、施設運営の質の向上を図ってい る。 外部評価に関する取り組みが不足しているた め、今後は第三者からのモニタリングを受けられ るような体制を整えていく。	B	利用者からの意見や提案に対して 施設内でミーティングを行い、改善 可能なものは対応を行い、接遇向上 のための努力が認められる。 今後第三者からのモニタリングに ついて準備しているということで、 確実に実施していただきたい。		
新型コロナウイルス感 染症等への対応	【P97】 新型コロナウイルス感染 症等への対応 【P101】 afterコロナに置いての施 設運営	・各所に消毒用アルコールを設置 ・備品のアルコール清掃の徹底	B	コロナ等感染症対策として、施設各所に手指消 毒用アルコールを設置しているほか、特に利用者 の入れ替えが多い、トレーニング室やロビーのア ルコール清掃を毎日実施している。 清掃チェック表を作成し、日常の衛生管理に取 り組んでいる。	B	手指消毒用アルコールの設置や サーキュレーターの活用、施設内の 清掃を適切に実施するなど、衛生管 理に十分配慮した運営を行えてい る。		